

新潟市歴史資料だより

資料紹介

旧黒埼町役場文書

旧黒埼村は明治34（1901）年、西蒲原郡鳥原村・金巻村・黒鳥村・木場村・板井村の5か村が合併して誕生しました。その後、昭和23（1948）年に中蒲原郡曾野木村の合子ヶ作（現：山田）と楚川新田の一部（現：善久）を編入し、48年に町制を施行、平成13（2001）年に新潟市と合併しました。

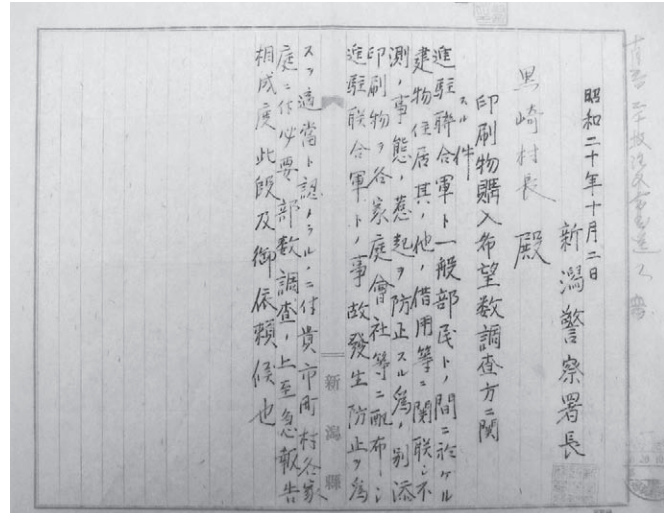
旧黒埼町役場文書は、昭和61年から始まった黒埼町史編さん事業に伴って町史編さん室に引き継がれた文書です。明治以降の行政資料を主体とし、一部江戸時代の資料も含まれています。資料点数は1,196点です。

掲載の文書は、「進駐軍に関する綴り」の表題が付いた簿冊に綴られた文書の一つです。この簿冊には昭和20年9月から26年8月までの47件の文書が綴られており、県や西蒲原地方事務所（県の出先機関）、新潟警察署などから黒埼村に出された、占領政策に関わる住民への通知や調査の依頼文書が大半です。

上段の文書は、20年10月2日に新潟県警察が黒埼村長へ、進駐軍将兵と住民とのトラブルを防止するための印刷物を作成するので、各家庭や会社に配布する必要部数を調査し、報告するように依頼したものです。

下段の文書は、その添付文書（印刷物の見本）です。将兵に向けた英文と、その訳文及び住民への依頼が書かれています。住民へは「連合軍将兵が一般家庭又は会社等を訪れ「家を貸して貰ひ度い…」とか又は「自動車が欲しい…」とかの交渉があった場合、直接交渉をせずに、このカードを提示して県庁の連絡室又は警察署に行く様取計って下さい。」と記されています。上段文書の右側に鉛筆で「二千枚注文」と追記されていることから、黒埼村ではこの印刷物を2,000枚注文して配布したと考えられます。

連合軍の新潟市への本格的な進駐が始まったのは9月24日でした。また、同年11月の黒埼村の世帯数は1,946世帯でした。



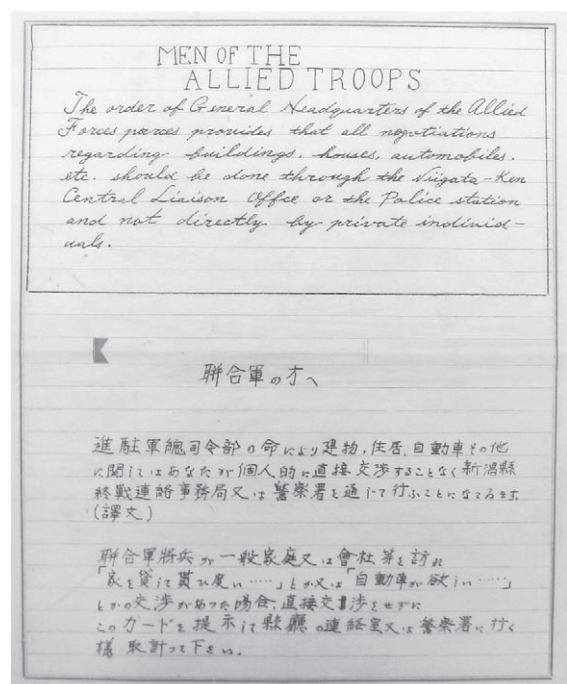
「十月五日二千枚注文書を送る」 (收受印)

昭和二十年十月二日
新潟警察署長 印

黒埼村長 殿

(割印) 印刷物購入希望数調査方二関スル件

進駐連合軍ト一般部民トノ間ニ於ケル建物住居其ノ他ノ借用等ニ関シ、不測ノ事態ノ惹起ヲ防止スル為ノ別添印刷物ヲ各家庭会社等ニ配布シ、進駐連合軍トノ事故発生防止ヲ為スラ適當ト認メラル、二付、貴市町村各家庭二付、必要部数調査ノ上、至急報告相成度、此段及御依頼候也



(添付文書)

平成20年度事業概要

多くの方々のご協力を得て、資料の公開・保存などに関する事業を実施しました。その概要を紹介します。

■資料の公開

歴史資料整備室で古文書等の複製資料や図面・写真、行政刊行物などを公開しています。旧更正図は横越公文書分類センター（江南区役所横越出張所3階）で公開しています。利用の際は、事前に歴史資料整備室へご連絡ください。

今年度の一般利用状況は以下のとおりです。

区分	図書	更正図	文書	公文書	写真	計
閲覧	19	47	54	5	4	129
複写	71	40	67	8	41	227
掲載	1	0	11	0	28	40
計	91	87	132	13	73	396

(平成21年3月25日現在)

■公文書分類センター

合併により旧市町村から引き継いだ公文書等の散逸防止と歴史的文書の保存を目的として、各出張所内に設けた6か所の公文書分類センターで、順次、整理・目録作成を行っています。

今年度は、岩室・横越公文書分類センター収納文書の整理・目録作成を実施しました。岩室センターでは、旧9支所の総務課以外の各課と旧新潟市の総務局以外の各課の長期保存文書の目録化を完了しました。横越センターでは、旧新潟市と旧7市町村分の旧土地台帳の目録化を完了しました。

センター	主な収納文書	整理計画
味方	旧14支所の総務課および旧新潟市総務局の長期保存文書	H19年度完了
小須戸	旧5支所の総務課以外の課および全市の教育委員会の長期保存文書	H21年度
岩室	旧9支所の総務課以外の課および旧新潟市総務局以外の長期保存文書	H20年度完了
横越	市域の旧土地台帳および旧更正図(地籍図)等	H20年度完了
月湯	旧14支所の国土調査・建設補助の文書	H21年度
湯東	新潟市の有期限保存文書	—

各公文書分類センターの概要

■資料の保存

①資料の整理

歴史資料整備室では、新潟市史編さんで収集した資料や寄贈資料等の整理を行っています。

今年度は、南区茨曾根関根家文書、秋葉区鎌倉新田小柳家文書、西蒲区和納横山家文書の整理・目録作成を行いました。

②資料のマイクロフィルム撮影及び複製本の作成

歴史的な文書等のマイクロフィルム撮影と焼付けによる複製本を作成しています。今年度の撮影フィルムの本数は83本、作成した複製本は下記のとおりです。B5判、1冊約90ページです。

- ・沼垂長谷川家文書（江戸～明治期）：4冊
- ・上大川前通小沢家文書（江戸～昭和期）：147冊
- ・豊栄市役所文書（江戸～昭和期）：405冊

③歴史資料の補修

傷んだ旧更正図（地籍図）・絵図等の裏打ち・軸装補修を実施しています。今年度は、旧新潟市・旧黒埼町内の旧更正図36点のほか、南区の「新飯田村河川図」などの補修をしました。

■資料の調査収集

①資料所在調査

平成17年度より、合併市町村の主な民間所蔵資料の現状確認調査を実施しています。今年度は巻・西川地区37か所の調査と、昨年度までに実施した地域の補充調査として、白根地区2か所、亀田・小須戸地区各1か所の調査を行いました。

②歴史的公文書の引き継ぎ

平成6年度より、廃棄公文書の中から歴史的価値のある文書を選別して歴史的な文書として引き継ぎ保存しています。今年度は155点、文書保存箱にして12箱を引き継ぎました。

■『新・新潟歴史双書4 内野新川』の刊行

「新・新潟歴史双書」の4冊目として、『内野新川』を刊行しました。現在の実り豊かな西蒲原の平野は、新川(内野新川)の開削をはじめとする、江戸時代以来繰り返されてきた治水事業によって実現しました。本書は、新川とそれを取り巻く自然や人々の歴史を記したものです。

市歴史博物館(みなとびあ)と市内の一部書店で、4月下旬から販売します。

- ・四六判、約150ページ

■歴史講座「古資料が語る新潟の歴史」の開催

10月2・9・16・30日に、新潟市生涯学習センター(クロスパル)で歴史講座「古資料が語る新潟の歴史」を開催し、103名の方々からご参加いただきました。各回の講義名と講師は以下のとおりです。

日程	講義名	講師
10/2	越後国の誕生と展開	新潟大学人文学部 准教授 中林 隆之
	駒首潟遺跡出土木簡からみた9世紀の蒲原	歴史文化課 相沢 央
10/9	中世新潟の信仰と戦争	元新潟市史主任編集委員 阿部 洋輔
	古資料から見た「天地人」ゆかりの新潟	歴史文化課 大平 淳一
10/16	湊町・新潟の命運を左右した「松ヶ崎堀割」を史料で読み解く	新潟市立新潟小学校長 伊藤 充
	御封印野新田開発関係資料を読む	歴史文化課 斎藤寿一郎
10/30	沢海養蚕業の盛衰	加茂市史編集委員 大塚 哲
	新潟市域の自治体警察	歴史文化課 福田 仁史

■「天地人の時代と新潟」展の開催

現在放映されている大河ドラマ「天地人」と、新潟の歴史に焦点を当てた「天地人の時代と新潟」展を7月19日から9月28日まで、新潟市歴史博物館(みなとぴあ) エントランスで開催しました。

展示では、上杉景勝かげかつと新発田重家しげいえが争った新潟津をめぐる攻防戦の様子などをパネルで紹介したほか、直江兼続かねつぐの実弟大谷実頼さねよりの城であった天神山城(西蒲区)の模型も展示しました。また、「天地人」のテーマである「義と愛の心」に生きた新潟市ゆかりの先人24人をパネルで紹介しました。

この展示は、その後、市内の区役所施設等を巡回し、現在、みなとぴあ敷地内にある旧新潟税関庁舎で開催しています。このほか「天地人」と新潟に関する展示は、西区の新潟ふるさと村内の観光情報館(時の旅人館)と南区役所味方出張所でも開催されています。

歴史文化施設紹介 — 石油の世界館 —

石油の世界館のある新津丘陵は、かつて石油の採掘が盛んで、日本を代表する油田地帯でした。

石油の世界館は昭和63(1988)年に開館しました。展示室Ⅰには原油や掘削機械、人工島や製油所の模型などが展示され、石油採掘の技術や石油利用の歴史が紹介されています。展示室Ⅱでは、新津油田で使われた様々な道具が展示され、油田の歴史や石油と人々の暮らしの関わりが紹介されています。

館の周辺は石油の里公園として、油井やぐらや石油タンクなど、採掘や精製で使われた施設が保存されており、自由に見学できます。また、館に隣接する石油王・中野貫一の邸宅とその庭園は観光スポットになっています。



石油の世界館



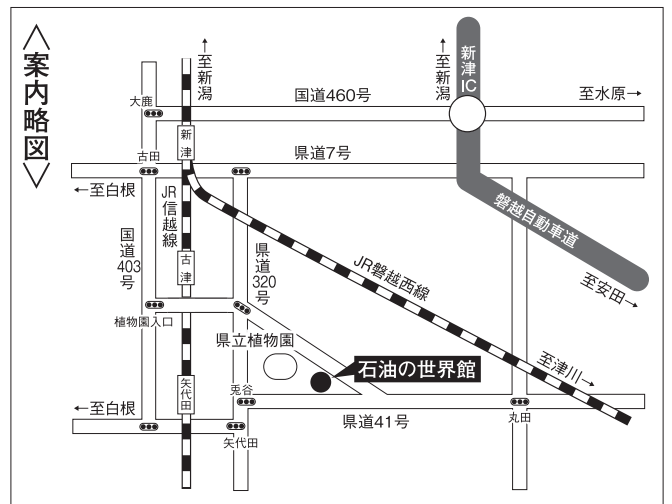
展示室Ⅰ



油井やぐら

<案 内>

- ・開館時間：午前9時～午後5時(入館4時半まで)
- ・休館日：水曜日(祝祭日の場合はその翌日) 年末年始、ただし5月・11月は無休
- ・入館料：無料(企画展示は有料の場合あり)
- ・所在地：新潟市秋葉区金津1172番地1
- ・電話：0250-22-1400
- ・交通：JR矢代田駅から徒歩で約25分 磐越自動車道新津ICから車で約20分



写真紹介

新川暗閘

右に掲載した新川暗閘^{あんこう}の絵はがきは、大正2(1913)年の暗閘の完成を記念して作られた5枚組絵はがきのうちの3枚と考えられます。平成10(1998)年に市に寄贈された西大畑藤田家文書に含まれていました。

五十嵐浜で日本海に注ぐ新川は、三潟(鎧潟・田潟・大潟)の排水を目的に掘削され、文政3(1820)年に通水した人工河川です。内野町の近くの西川との交差部では、西川の下に木製樋管(底樋)を敷設して立体交差にしてありました。その後、底樋の増設と伏せ替えが何度か行われました。

しかし、明治後期には、老朽化と土砂の堆積によって、新川の流量は半減していました。そのため交差部の大規模な改造工事が行われ、新川暗閘が建設されました。

写真1 工事中の暗閘の下流側です。「流湿毓秀^{りゅうしついくしゅう}」と書かれた銘板がはめ込まれています。暗閘はレンガや花崗岩などでできた9門アーチで、アーチの中を新川が流れる構造です。工事のため新川はまだ流れていません。海水の逆流を防ぐために各門に取り付けられた扉が見えます。

写真2 工事中の暗閘上部です。完成後、ここを西川が流れました。絵はがきには「西川改良側壁及川床之景」と記されています。側壁の内側は鉄筋コンクリート、外側はレンガ積みで、その上に切石を積み、さらに鉄の手すりを付けて西川の舟運(引き船)の便が図られました。

写真3 暗閘完成後、新川上流側から見た景観です。「新川暗閘」の銘板が見えます。改造工事は5年に及び、経費は約19万円でした。暗閘の完成によって新川の排水機能は飛躍的に改善されました。

新川暗閘による新川と西川の立体交差は、昭和30(1955)年に西川水路橋による立体交差に代わり、現在に至っています。

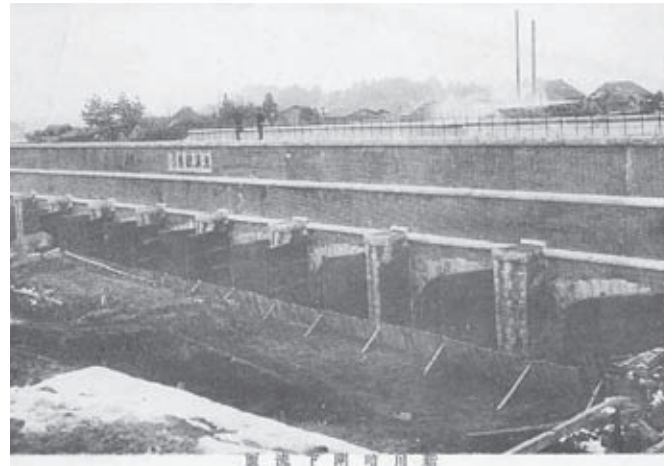


写真1 工事中の新川暗閘下流側



写真2 工事中の新川暗閘上部



写真3 完成後の新川暗閘

お願い

歴史資料の所在調査を実施しています。江戸時代や明治～昭和期の文書・写真、戦中・戦後の記録などがありましたら、ご連絡ください。また、お持ちの古文書等の保存方法についての心配ごとがありましたら、歴史文化課までお知らせください。

編集・発行 新潟市文化スポーツ部
歴史文化課(担当: 歴史資料整備室)
〒951-8131 新潟市中央区白山浦1丁目425-9
TEL 025-226-2584
FAX 025-230-0412
Eメール rekishi@city.niigata.lg.jp